

議 事 要 旨

議 事 要 旨	
会 議 名	徳島県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会会議
日 時	令和2年2月14日(月) 19:00～20:30
場 所	大会議室(徳島大学病院中央診療棟)
出 席 者	宮本会長、金山部会長、寺嶋委員、嶋田委員、石倉委員、渡辺委員、漆川委員(郡代理) 正宗委員、林委員、森委員、原委員、山口委員(飛梅代理)、東條委員、中村委員、 鎌村委員、香留委員 ※()は代理出席者〔敬称略〕
実務者	徳島大学病院:三木看護師長、福田社会福祉士、秋月社会福祉士、高田相談看護師 徳島県立中央病院:有馬社会福祉士
欠席者	安藤委員、影治委員、藤原委員
陪席	徳島県健康増進課:前田係長 徳島大学病院:中西係長、宮越技術補佐員
<p>議 題</p> <p>金山部会長の司会進行のもと、がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会会議が開催された。開催にあたり、宮本徳島県がん診療連携協議会会長から挨拶があった。</p> <p>【報告事項】</p> <p>1. 都道府県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会報告について</p> <p>徳島大学病院実務者の高田相談看護師から、添付資料P1～18「第13回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会」についての報告があった。</p> <p>(1) 第13回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会について</p> <p>2019年12月5日に第13回部会が開催され、徳島県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会金山部会長が欠席のため、宮本会長と高田相談看護師が参加した。</p> <p>1. 議事としては「がんゲノム医療に関する体制整備の現状と今後の方向性 (厚生労働省)</p> <p>がんゲノム医療の現状と、第3期がん対策基本計画の中で現在取り組まれているがんゲノム医療の施策について、紹介があった。また、がんゲノム医療推進コンソーシアムの中での、がんゲノム医療中核拠点病院等の現状、各々の機関で担う役割の整備・連携体制についての説明があった。また、パネル検査の開発状況、がんゲノム医療に関わる医療者の人材育成の事業について紹介された。</p> <p>2. がんゲノム医療の基礎知識として、ゲノムと遺伝子に関する説明から始まり、コンパニオン検査と遺伝子パネル検査、適切な検体、検査結果による薬剤選択、がん種タイプ別の最適なタイミング、検査の適応となる全身状態、遺伝性腫瘍について説明があった。注意点として、がんゲノム医療は遺伝子治療ではなくあらかじめ特定された遺伝子領域をシークエンスする「検査」であること、遺伝子異常にマッチして治療に至った症例は米国、日本とも10～15%であることなどが説明された。</p>	

3. がんゲノム情報管理センター（C-CAT）の組織図、役割や取り組み、データ の集積と利活用、インフォームドコンセント・情報利活用ワーキンググループによるがん遺伝子パネル検査に関するモデル文書や患者向けパンフレットが紹介された。生殖細胞系列変異が原因である若年性乳がん、卵巣がんに関する説明があり、がんに関する 3 遺伝性腫瘍が判明する可能性についてのモデル文書も紹介された。さらに、C-CAT 調査結果の見本が紹介され、遺伝子変異情報を検索するデータポータルの利用など将来 の可能性についても説明があった
4. 保険外併用療養を可能にする一つの制度である患者申出療養の詳細と、現在までに患者申出療養で実施された治療技術について紹介された。

高田相談看護師から、詳しくはがん情報サービス医療関係者向サイト「都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会」第 13 回情報提供・相談支援部会を参照していただきたいとの報告があった。

2. 徳島県民がんフォーラム報告について

金山部会長から、別紙資料「徳島県民がんフォーラム2019実施報告者」について報告があった。

- ① 令和元年9月8日(日)13：30～16：00徳島大学大塚講堂で徳島県がん診療連携協議会診療連携部会、情報提供・相談支援部会、緩和ケア部会が主催、徳島大学病院がん診療連携センターと徳島新聞社が共催で開催を行った。
- ②内容は「がんとうまく付き合う患者術・生活術」で主治医との向き合い方、抗がん剤について、口腔ケア、がん相談支援センターなどについて行った。
- ③当日の総来場者は591人(事前申込が491人、当日受付100人)と非常に多数の参加があった。アンケート結果は資料を参照。

金山部会長から、がん患者さんの相談窓口としてがん相談支援センターを周知することも大きな目的としており、今後も引き続き毎年市民公開講座を行いたいとの要望があった。

3. 実務者のがん相談支援センター相談員研修会等について

福田社会福祉士から、添付資料P19～31に基づき「がん相談員研修会・実務者会報告」について説明があった。

- ①今年度の実務者会として各分野推進チームを立ち上げた。令和元年7月23日にPDCA サイクルチーム、研修企画チーム、地域の療養情報チームとして各チームが検討を行った。
- ②PDCA サイクルチームは、がん相談支援センターにおける相談対応の状況や周知方法等について、実地見学及び各施設との情報共有を行い、令和元年11月22日（金）13：30～14：30に徳島大学病院、徳島赤十字病院、徳島市民病院、吉野川医療センターが徳島県立中央病院の実地見学を行った。
- ③研修企画チームは、徳島県がん相談員研修会～相談対応の質保証(QA：Quality Assurance)を学ぶ～を令和2年2月1日（土）12：30～17：30徳島大学病院日亜ホール White にて行った。講師は国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センターの高橋朋子先生にいただいた。参加者は34名(徳島県14名、愛媛県12名、香川県8名)ファシリテータとして四国4県から各県2名ずつ、計8名にいただいた。アンケート結果は資料参照。次年度の予定として相談員向けの研修会を実施予定。内容はグループメンバーで協議を行う予定である。なお、QA研修in愛媛(日程未定、10月～11月で調整中)に指導者相談員の協力要請があった。

④地域の療養情報チームは、冊子に盛り込む内容について、グループメンバーで検討中である。

⑤地域相談支援フォーラム in 四国を令和2年3月7日(土)に愛媛県で開催予定である。

金山部会長から、四国4県での持ち回りQA研修は年に1回の開催予定なのかとの質問があった。福田社会福祉士から、年1回とは決まっておらず四国4県持ち回りで開催を行っている。講師は国立がん研究センターが派遣を3年間は無料でしていただけるため、1年目は高知県、2年目は夏に香川県、冬に徳島大学病院で開催した。今年秋には愛媛県で開催する予定にしている。その後は、どのような形で開催になるのかは未定であるが、参加者等から継続して研修会を開催していただきたいとの要望をいただいているとの回答があった。

香留委員から、医療従事者は情報提供・相談支援の研修会や緩和ケアの研修会を受講されている。その中で、患者の相談としてゲノムの相談も需要が多いと思うが、緩和ケアをはじめがんに関する相談が増えてきている。どのような事柄が多いか、どのような支援体制となっているのかを聞かせていただきたいとの質問があった。

高田相談看護師から、ゲノムに関しては当院はがん相談支援センターが窓口となっている。パンフレットを用いて説明や、最近では専用の説明ビデオを用いて説明も行っている。また、意思決定支援も行っている。院外の方でも希少がんまたは標準治療が終わっていることが保険診療での条件となっているため、紹介の流れや自由診療等の説明も行っているとの回答があった。

香留委員から、ゲノムの窓口はがん相談支援センターでの対応であるが、緩和ケアに関しては相談支援の中でもこぼれてしまう方もいるため、現場で対応しきれない方の対応をどのようにされているのかとの質問があった。

金山部会長から、ゲノムに関わらず、いろいろな相談についてなのかとの質問があった。

香留委員から、ゲノムに関わらず緩和ケアならがん診療連携拠点病院が受け入れてくれるが、地域に帰った場合にどこがどのように受け入れをいただけるのか、どのように対応していただけるのか不安であるとの回答があった。

高田相談看護師から、相談の窓口がよく知られていないことが問題ではないか。がん相談支援センターの窓口があるため、広報活動や周知ができればいいのではないか。窓口だけでなく、電話対応も可能であることも知っていただきたいとの説明があった。

金山部会長から、がん相談支援センターにたどり着けない方もいらっしゃる。周知のために、県民がんフォーラムの開催を行ったり、県内のがん相談支援センターの電話番号を記載したポスターも配布を行っているとの説明があった。

宮越技術補佐員から、がん相談支援センター周知のためにポスターを昨年度30000部の作成を行い、各医療機関や保健所等の関係機関に配布した。また、県民がんフォーラムやセミナー等でも配布を行い在庫がなくなったため、追加で10000部作成を行った。また、周知するために令和2年3月中旬頃に徳島新聞にも掲載を行う予定であるとの報告があった。

香留委員から、患者会にたどり着く方はがん相談支援センターを知っている方がこの数年は多くなっている。ただ、その方々は窓口で相談されて満足をされているが、中には窓口がわからない方もおり、その方を拾い出すのが難しいとの意見があった。

金山部会長から、相談にたどり着いていないのかとの質問があった。

香留委員から、行かれた方も実際に思ったことが伝えられない方もいるとの回答があった。

高田相談看護師から、一度でなく何度でも相談してくださいと伝えている。一回の相談で解決できるわけではないため、納得がいくまで何度でも相談をしていただきたいとの意見があった。

香留委員から、何度でもとの言葉をいただいて非常にありがたい。患者会としても伝えていくが、

病院としても掲示等をしていただければとの要望があった。

有馬社会福祉士から、相談員の課題ではあるがご自身の持っている不安を言葉にできなかつたり、ついていけていないなどに対してのトリートメントをすることが必要であり、がん相談員も研修会等で事例を取り入れて言葉にできない方のニーズを拾い上げるなどトレーニングを行っているとの意見があった。

【協議事項】

4. 来年度事業計画について

福田社会福祉士から、次年度事業計画について説明があった。

①PDCA サイクルチーム、研修企画チーム、地域の療養情報チームがそれぞれグループメンバーで協議を計画する。

福田社会福祉士から、香留委員よりご意見をいただいた件について、患者さんの希望に添えないことがないように、がん相談員のスキルアップも行っていきたいとの意見があった。

5. その他

福田社会福祉士から、がん相談支援センターに相談に来られた方からの相談で、医師を信頼し治療について納得をしていたが、ピアサポーターに相談したことにより不安が増してしまい、医師との信頼関係が揺らいでしまった方がいた。ピアサポーターの養成を県で行っているが、個々に活動をされているのか、活動状況を把握している機関があるのかとの質問があった。

香留委員から、3つの患者会で連携しながら動いているとの回答があった。

福田社会福祉士から、ピアサポーターの評価などもがん相談員と共に支援者として共有しながら質を高めることも必要なのではないか。ピアサポーター養成研修を主催している徳島県としても今後、検討していただきたいとの要望があった。

金山部会長から、ピアサポーターと相談員が交流する場はないのかとの質問があった。

香留委員から、徳島県で養成講座が行われており、希望者の制限は行われていない。そのため、修了された方は約40名程度いる。ピアサポーターで相談対応を行った場合、相談内容を記録している。ピアサポーターと相談員が交流はないが、がん診療連携拠点病院の相談員に相談にのって頂いている。ピアサポーターと相談員との交流があればピアサポーターもより安心して相談の技術が磨かれるのではないかと意見があった。

金山部会長から、ピアサポーターの養成はどのくらいの期間で修了できるのかとの質問があった。

前田係長から、ピアサポーターの養成講習会は2日間にかけて行っているとの回答があった。

香留委員から、ピアサポーターの養成講習会は今年度開催がなく、フォローアップ研修が3時間となっているとの補足があった。

金山部会長から、どのような内容でされているのかとの質問があった。

香留委員から、内容については県が決めており、今回はがん教育の紹介と聞いているとの回答があった。

金山部会長から、今後は交流会も含めて相談の質を高めていただきたいとの要望があった。

寺嶋委員から、徳島県がん診療連携協議会緩和ケア部会の中で、徳島県立中央病院が作成を行っているアドバンス・ケア・プランニング冊子を県内統一として県内の病院等で使用できないかとの要望があった。検討の結果、ワーキンググループを立ち上げて内容の見直しを行っていく予定である。その後、印刷は各施設の予算で行うのでいいのではないかとの意見があり、徳島県がん診療連携協議会で承認していただく予定であるとの報告があった。

金山部会長から、各委員の方から、挨拶をいただきたいとの要望があった。

(徳島県立中央病院) 嶋田委員から、当院は正面玄関を入った総合案内に相談員がおり、何度か足を運んでいただいた方も相談されたりしている。相談の質を上げるためにがん相談支援センターの相談員の養成も今後は行っていきたいとの意見があった。

(徳島赤十字病院) 石倉委員から、当院のがん相談支援センターはオープンで立ち寄りやすく、どんな相談でも受けおり、受けられない相談はない。不安な方は毎日来られているため、安心してきていただけるとの報告があった。

(徳島県鳴門病院) 郡氏から、当院の相談窓口はがんに特化した相談室ではなく患者サポートセンターの中で看護師やMSWなどが総合相談を担当している。そこでがんの相談も受けている。実務者としてまた協力を行いたいとの報告があった。

(吉野川医療センター) 林委員から、当院もがん専門の相談室はなく、患者サポート室でがんの相談も受けている。また、緩和ケアチームの結成に向けて取り組んでいるところである。その他、令和2年3月5日に西部地区で開催される徳島大学病院がん診療連携セミナーにも協力を行う予定であるとの報告があった。

(阿南医療センター) 正宗委員から、当院でも相談窓口でがんの相談があれば行っている。寺嶋委員も当院に赴任されたため、緩和ケアでも活動いただいているとの報告があった。

(徳島県介護支援専門員協会) 東條委員から、ケアマネジャーの仕事も行っている。がんの方は比較的ADLが保たれているためターミナル期になってから、介護度を取得して在宅に移行される方が多い。その場合は事前指示書の活用を行ったり、病院と連携しながら行っている。また、ケアマネジャーの業種は研修が非常に多いが、情報をいただける勉強会や研修会にも積極的に参加させていただきたいため、案内をいただきたい。私たちも患者さんやご家族から相談を受けた場合は、きちんと情報を伝えていきたいとの意見があった。

(徳島県薬剤師会) 中村委員から、薬剤師会では機会がある度にがん相談支援センターのポスターを配布するなど周知をさせていただいている。今後も、がん相談支援センターを広めていくために協力をしていきたいとの意見があった。

(患者会) 香留委員から、患者さんやご家族の相談を受けていただける窓口があり安心して相談ができる体制となってきた。一方では地域に出られると、地域連携が足りないように思われる。クリティカルパスがあるとはいえ、求めるものがあると感じているため、今後検討いただきたいとの要望があった。

(徳島県健康増進課) 鎌村委員から、来年度の当初予算としてAYA（思春期・若年成人）世代のがん患者が子供を産み育てる治療に取り組める体制づくりの推進を目指し、妊よう性温存治療に対して助成する内容で提出を行っている。(案)が決まりましたらご支援、ご協力をお願いしたいとの依頼があった。

(徳島県保健所) 原委員から、保健所ではがんに特化することなく様々な相談対応を行っている。専門的な相談になれば、がん相談支援センターの紹介を行っている。また、徳島保健所では住民の

皆様への情報提供の一環として、ロビー展を開催している。今月は「世界がんデー」となっており、がん相談支援センターのアピールも行いたいとの報告があった。

(徳島県歯科医師会)飛梅氏から、がん相談支援センターの周知に歯科医師会も協力をしていきたい。また、年に1回会員向けにがんの治療等の講演会を行っている。講師にも伝えて、がん相談支援センターの紹介も入れていただくよう要望を行いたいとの意見があった。

(徳島県医師会)森委員から、かかりつけ医やがん相談支援センター、ピアサポーターの広報が必要である。がん相談支援センターのポスターを毎年でも送っていただきたいとの要望があった。

(緩和ケア部会)寺嶋委員から、在宅ケアの緩和ケアパスは他県で作成はされているが実際に運用が難しい。パスを作るよりは実体的に患者さんのサポートを行えるようにしてきたが、がん相談支援センターに来ていただけると情報などお伝えできるのではないかと意見があった。

香留委員から、徳島大学病院でパスを作成されているのではないのか、リスト化されているのではないかと質問があった。

宮越技術補佐員から、緩和ケアパスの作成はしておらず、徳島がん対策センターで緩和ケアマップを作成しており、病院をクリックいただくと地域の病院の情報が閲覧できるようになっているとの回答があった。

有馬社会福祉士から、在宅の医療機関にアンケートを送付し、回答いただいた医療機関の在宅緩和ケア対応情報を掲載しているため、閲覧をいただきたいとの補足があった。

(徳島市民病院)渡辺委員から、当院ではがんセンターがあり、がんセンターの運営委員会を毎月行っており、患者相談員も参加している。がん相談の件数も年間1000件以上を超えている。今後も様々な相談に対応を行えるようがん相談を充実させていきたいとの意見があった。

金山部会長から、情報提供に関しては徳島がん対策センターホームページにはかなりの情報が掲載されているため、がん相談支援センターと同様に周知も行っていきたい。患者さんは薬局にもいかれるため、薬局にもポスターを配布していただきたい。今後もピアサポーターとの連携も行いながら質の向上にも努めていただきたいとの挨拶があり閉会となった。